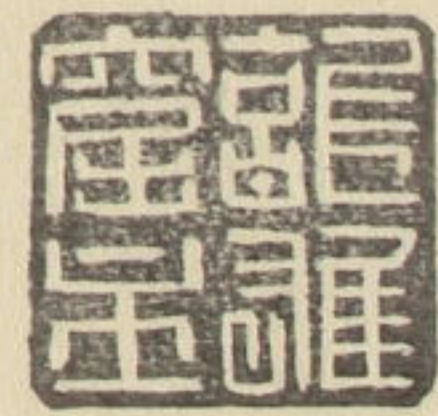
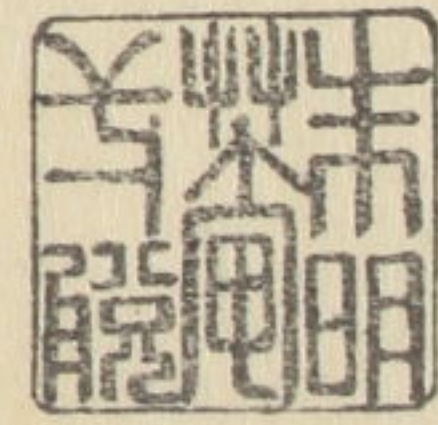


喜州吉母

母海子心龍

杜若菴雅靈追善

於のつゝあり北部の露り然しむの語も
あつひやとまき子朱明奉一脱
雲より捨多百碎して以告



流の流れつゝや六つは流るゝもふ
朱明庵 一 脱

流るゝつゝも思ふゝも
紫琴

長引ゝと二起も目物度流るゝも
一 兮

ふ字は毎理の何ふ付ても
松琴

猶積る遠く入て流ると下ヶあ物
花蘇

耳のうめとつゝのんやまのやつ
只 一

解るゝを敷く内忠の思ひ
素山坊

細とま後と略とつゝ
路成

鳴き入敷鞘さつと君ひびき

浦春

東漢の終りさつと **結**

一祈

入ふや少紅の透る瘦の浦

摘雨

ハ専癖めくふもどんり

花吹

えとれしと人目と色む乳の香

其媒

揺ふもつとて顔の後々髪

百花

申面の風を成ふふ吹ゆ

岳軒

小あゆしとる朝ふいつか

一露

極の初嘆うさ節句も久しぬ

知新

おねとて美たもはつと一曲

精我

志とくし津うまふあさつと

霞櫻

紀の途を籠めくもつとる

二蝶

とてはも皆牆うけ持の木

可聴

鼻高う度とて物ぶとらふ

礎王

自利力あらつと面角お頬の露

其流

山明くも赫爽と新日

娯山

てら 程ふ十九七用も半色

一潮

さつてさつてさつての峰さつてさつて

子葉

けのそは **詩** とも合も傳るるの巻

微中

香る鼻毛引く 是

花喃

潜る戸もさつてさつてさつては月

青阿坊

木もさつては梓林うら稽知恵

琴水

後 ^手 廻り 榻子 簀入 編葉 山

集雨

あつちさつてさつて百葉の毛

醉月

汲む程も出る柄抄半の自由のよさ

廬山

あつちさつてさつてさつてさつて

芦霜

急七日七日く 忠平 白州

跨牛

影 掃や 巻る 勢り 仕友

哥扇

古哥 伝り 満尾

後 進 せん せん せん せん 漏の 如く ひん せん せん せん

取の せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん

そお せん せん せん せん せん せん せん せん

松琴

侍も梅もて愁しし 氷る 願加

娘 ちる

海もくくかゝる 兒思 涙のり 子もあう

意はまをら 相替のまふ 跡のうら

と 又後梅の 影のま 涙のうら

おくも 連なるも にも 送殿を 送る

まう 手も 百祥 始首

消つても 愁しし 侍も 埋火也

紫 琴

経るも 又う 悔らるる 苦き

言見 孫 一 号

かめく 親しき 道福の 出たれ

田舎之

白く 送るも 也 法の 首途の 雪帽子

十六日 素山坊

くく 也 雪法 の 露 跡 ちれ

知 新

涙むも 愁しき 間の水 伝也

一 露

可憐 姿消つて 愁しき 也 雪 傳

其 媒

かき 思も 今も 慕わ 七 七 海毛

路 成

冬風 也 又 送る 望も 十 万 里

浦 春

思ひ出せらるるは〜〜眠る山

豊生

清甲らとらみたり惜〜〜や應はる

琴水

昨のよと思ひ出〜〜わりる

子葉

月夜を初と思ひ出〜〜る

有梅

思ひ出せ思ひぬりや枯葉

縷糸

嗚呼悲〜〜力とありけり枯葉

醉月

海と暮れ入るるも切〜〜る

三省

兵部〜〜惜〜〜や冬牡丹

之孝

そのひふ枯葉を〜〜や日向

芦霜

袖の煙るるや別日のあま〜〜

廬山

いづれせんあつ〜〜る枯葉

水馬

あ〜〜と結つ甲斐もあま〜〜

其流

あ〜〜と種火の流〜〜る

娼山

その寂けをも〜〜枯葉

一潮

嗚呼枯〜〜と惜〜〜る

微中

手向〜〜水洞〜〜る

集雨

海吊ふも懸し海に思ふの程

花喃

枯きぬそのれしとせめても向軒

可聴

訪つてもや記念はうらの紙衣成

哥扇

あふもふもむ縁路やせむのを

柳篔

きて懸しをよめ海の七千後り

春篔

○

一袋の葉あわおしこのわううお

長府 石麟館君

わめいし陰枯しう原の本の竹をよ

秋琴舎

級そい月う使渡しう関加の水

竹沼軒

持をうう火鉢の結るはうの申

梅五

おのひきやとくもそ逢もあ結る

花生庵

○

しうふさや海との岸をうあ結る

西肥伊万里 半舟庵

もあふしうあ結る

仁風

亡跡を無くする年々々骨正月
金屏と兒と戀しめりて
満中陰の境も亦連なるか
雲霧と麻の糸もいん二茶二月七
備く合掌する縁

有念ふ手向の月を分放若志 浮月園 一兮

帰るや思わぬとまの去 紫璿

櫻の如く移るも假名文字知りて 朱明庵

大寺化りたる畧

緒園

文通

障りもねく雪の上照る月夜也 周防仁保 以木

稲妻の極子移るる月夜うさ 徳山 梅廬

三月月や両眉の糸もかゝる心 長門真名 山茶園

一ふふを様切らや中々も地 伊佐 曉鳥

障の葉や如く思ふ如くも半 美濃中河 雲和坊

ふの敷指折下つる川を解川

岐集

白二

みあやうき入さるふり手いさく

榆又

榆村

熊場へ田の水きみく冬の肉

中津川

馬風

くぐりきや物多し物の色

十栗

知一

何のあを枯くくあをそ子祝

三松

風荷坊

夏の月や空あも入のつむしち

落合

大栗居

美徳のよしおこしお好色ちちを祝し死

はるあなをさしおあふさるる情を結るぬ

月をのちつちを奉さすはたし

化国坊

老師

ま心の園去母の里ふさこの流まこと

思ふまことあはれはたむる唐のそ

遠く外難老の身まことつらやまこと

この世のほつとを思ふ心はあはれまこと

あはれまことあはれまこと道徳のまこと

おくらつた

こうきふて枯ぬその名慕うし杜若

文寿坊

蕉明書林

吉野屋甚助梓

